以上で質問を終わります。

鈴木富美子委員の総括質疑

○梅津善之委員長　次に、順位２番、議席番号10番、鈴木富美子委員。

○１０番　鈴木富美子委員　清和長井の鈴木富美子です。９月定例会の決算総括の質疑をさせていただきます。

10款４項２目、003生涯学習推進費についてお伺いいたします。

この事業は青少年育成事業ですが、この事業の中に委託料がありますので、その内容と活動の成果についてお聞きしたいと思います。

青少年健全育成事業は３つの部会に分かれて活動されておりますが、初めに家庭部会についてお聞きします。

早寝早起き朝ごはんの運動の推進は、現在どのようになっているのでしょうか。啓蒙リーフレットの作成、配付だけなのでしょうか。また、アウトメディア運動の成果はどうでしょうか。地域づくり推進課長にお聞きいたします。

○梅津善之委員長　新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長　お答えいたします。

家庭部会におけます早寝早起き朝ごはん運動についてですが、この運動につきましては、平成18年度に文部科学省がスタートさせたプロジェクトでございまして、幼児期からの基本的な生活習慣の確立を目的といたしまして、様々な取組を行っております。

本市といたしましては、今の活動内容といたしましては、生活習慣が乱れやすい学校の長期休みの間に規則正しい生活への意識づけを図ってもらうということを目的といたしまして、夏休み前に各小・中学校のほうに周知のチラシを配付を行っているところでございます。また、学校のほうからも、生徒児童に対しまして生活習慣記録カードというものを配付していただきまして、おうちの方と一緒に協力して生活内容を記録するなど、各学校でいろいろ工夫しながら取り組んでいるところでございます。

また、アウトメディア運動につきましても、新型コロナウイルス感染症によりまして外へ出る機会が少なくなったり、テレビであったり、ゲーム、あとインターネット、そういったところに触れる時間が延びた子供たちに対しましては、アウトメディアの意識づけが重要となりますので、そちらも周知のチラシを配付しているところでございます。

市といたしましては、早寝早起き朝ごはん運動及びアウトメディア運動については、子供たちに気づきを与える機会の提供を目的といたしまして、毎年定期的な周知を行っているところでございますけども、各学校のほうでもしっかり先生のほうから声がけをしていただいておりますので、成果は十分出ているものと考えているところでございます。

○梅津善之委員長　10番、鈴木富美子委員。

○１０番　鈴木富美子委員　成果につきましては各学校ごとにということですけども、その話は学校のほうとも教育委員会との連携とかで何か話は聞いていらっしゃいますでしょうか。

○梅津善之委員長　新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長　各学校ごとにチェックシートのようなものを作ってまして、それをちょっと見せていただきました。学校教育課のほうから情報を確認いたしまして、各学校のほうで十分いろんな工夫をされて取り組んでいるというところを確認しておりますので、十分成果は出ているものと考えております。

○梅津善之委員長　10番、鈴木富美子委員。

○１０番　鈴木富美子委員　やはりアウトメディアといってもなかなか、新型コロナウイルスに

感染したりしますとどうしてもそちらのほうに行ってしまうことが多いのかなと思いますけども、今後とも、悪いことではないと思いますけども、いい方向にメディアを使えればいいなと思いますので、その辺、教育委員会とも話し合いながら、ぜひ子供たちのためにしっかりした指導してほしいなと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に、環境浄化部会の活動についてですが、赤色防犯パトロールの活動は本当、子供たちの下校に対しまして安心・安全に寄与していただいたことに感謝いたします。

青色防犯パトロール活動のほかには、有害図書の実態調査とありますが、どのような形で行うのか、また調査の結果はどのように反映されているのかを地域づくり推進課長にお聞きいたします。

○梅津善之委員長　新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長　今ありました環境浄化部会につきましては、毎年有害図書類調査を行っているところでございます。環境浄化部会につきましては、有償ボランティアとして活動していただいております青少年育成推進員で構成された部会でございまして、この推進員につきましては各コミュニティセンターのほうから推薦を受けまして選ばれておりまして、長い方で15年間推進員として活動していただいてる方もいらっしゃいます。

この調査につきましては、環境浄化部会委員と、市の行政の担当者、また県のほうから派遣されました青少年指導員などが３人か４人ぐらいのグループをつくりまして、市内のコンビニエンスストア、あとは書店等におけます有害図書の陳列、販売等の状況を点検しております。販売店におけます青少年育成の取組について確認、あと協力をお願いするものでございまして、県が指定している、一斉活動日に原則として一斉に実施をしているところでございます。

調査の対象につきましては、先ほど申し上げましたコンビニエンスストア、書店、あとレンタルのＤＶＤ店、あとゲームセンター、インターネットカフェ、自動販売機などで成人用図書類があるか、ほかの図書類と区別して陳列しているか、あと、常時監視できる場所に陳列しているか、そういった内容を確認行いながら調査結果報告書を作成しまして、置賜地区の青少年連絡協議会事務局のほうに報告を行っているところでございます。

有害図書の配架等で目につきやすい場所にあるなどの問題点がありましたら、その場で手直しをお願いすることもありますけども、強制力が特になくて、あくまでも依頼する形となります。依頼に応じない店舗がもしありましたら、最終的には県のほうのしあわせ子育て応援部の女性・若者活躍推進課のほうに報告を上げまして、県警とも連携しながら必要に応じて店舗のほうに改善指導を行っているところでございます。

今年度につきましては、７月２日の土曜日に、市内のコンビニエンスストア、あと自動販売機等に係る調査を実施したところでございます。昨年同様、指導が必要な店舗は特にございませんでして、これにつきましても、東京オリンピック・パラリンピックが開催された関係もございまして有害図書の規制が全国的に厳しくなった影響もありますので、有害図書の販売が減少していることも影響があると思っているところでございます。

今年度につきましては、事務局員によります事前調査も別に実施しておりまして、初めてスーパーであったりドラッグストアの確認も行いましたけども、有害図書に該当するような書籍は特に見当たらない状況でございました。

有害図書調査につきましては、継続的に行うことで青少年にとって悪影響のあるものの排除につながっておりますので、引き続き当該調査

のほうを行っていきたいと考えているところでございます。

○梅津善之委員長　10番、鈴木富美子委員。

○１０番　鈴木富美子委員　この活動につきましては成果があるということですよね。そうしますと、お店の協力は大変いいという結果ですね、そうしますと。どうですか。

○梅津善之委員長　新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長　今年、私も一緒にちょっと回ってみたんですけども、昨年もそうだったようですが、コンビニのほうの書籍置いてるところについては一切そういった有害図書は置いていない状況でございましたし、あと、ＤＶＤ店も見ましたけども、ちゃんと区分け、仕切りがされておりまして、適正に管理されている状況でございました。

○梅津善之委員長　10番、鈴木富美子委員。

○１０番　鈴木富美子委員　何かコンビニ行くと目につくのもあると思うんですが、あれは有害じゃないのかなと思いながらも、有害図書ってどの程度まで有害図書というんでしょうか、その辺の線引きはどうなってますでしょうか。

○梅津善之委員長　新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長　チェックするときにある程度のマニュアルみたいなのがございまして、それに該当するような書籍は一切コンビニのほうには置いてありませんでした。

○梅津善之委員長　10番、鈴木富美子委員。

○１０番　鈴木富美子委員　ありがとうございます。ぜひ続けていっていただきたいと思います。ありがとうございます。

３番目に市長にお聞きいたします。

青少年部会は、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、少年議会もここ２年ぐらいできていなかったと思います。その代替事業といたしまして、長井南・北中学校の３年生を対象に市長の講話を実施されたとお聞きしていますが、子供たちの反応について市長にお聞きいたします。

○梅津善之委員長　内谷重治市長。

○内谷重治市長　お答えいたします。

昨年の２月と、あと今年の２月と、南北中の３年生に講話をさせていただく機会をいただきました。最初、少年議会が開催できないということで、まちづくり少年育成市民会議のほうでやっぱり少年議会に代わる何かをということでいろいろご検討いただいて、それで私は知らなかったんですが、教育委員会のほうで教育長やら、あるいは各中学校の校長先生方、そして市民会議の会長はじめ委員の皆さんと協議して、じゃあちょっと市長に話を、講話を質疑も含めて50分ぐらいでということでした。

私は、ちょっと話が難し過ぎてなかなか反応が悪いのかなと思っておりました。今タウンミーティングをさせていただいておりますし、あと昨年と今年度も、職員との意見交換会とか、あとは座談会などを地域で行ったときに、まちづくりの状況などをお話しさせていただく、そういったことをお話しさせていただいたんですが、びっくりしました、反応が。というのは、多分堅い話なので分からないだろうと思っていたんですが、多分感覚的に子供たちにとってみれば新鮮な話だったんだと思うんですね。それぞれの校長先生方のご配慮で、全３年生から、500字ぐらいでだと思うんですが、感想文を書いていただいたのを私のほうに送っていただきました。それを見せていただいて、実は涙が出るぐらいうれしかったというか、意外だったです。

それは何かというと、自分の中学３年ぐらいのことを思い出してみればもう少しよかったのかもしれないですけども、今の感覚でいいますと、３年生にとってはこれから高校の進学ということで頭がいっぱいで、あまり日々の長井市の状況とか、あとこれから自分、将来どうするんだろうかとかというのは、はっきりもちろん

ないわけですよね、考え方というの。そんな中で、大体６割ぐらいの、５割から６割ぐらいの方がどういうことを書いていただいたかというと、自分は、あるいは私は、高校を卒業して社会に出るか、あるいは進学するか、いろいろ道はあると思うけども、いずれにしろ漠然と東京とか長井ではないどこかに移って、そこで暮らすもんだと思ってたと、そこで県外で仕事して。だけども、内谷市長の話を聞いて、長井市もこんなに頑張ってくれてるんだと。やっぱり生まれ育ったところというのをもう一回見直して、自分も何らかの形で戻ってきて生まれ故郷に住んでみたい、あるいは高校になったらぜひそういった長井市のまちづくりに関われるんだったら何か関わってみたいという感想のお子さんが５割、６割でしたので、非常に私はびっくりしました。と同時に、もちろんうれしかったわけですけども。

２年目の今年の２月は、もう少し資料とか分かりやすく話をさせていただいたんですが、やっぱり同じような感想文といいますか、作文を頂いたので、ますますこれは我々も諦めずに仕事とか、もちろん仕事とか将来自分どうしようかとかという、進学も含めてまだ中学生ですから定まってないわけですけども、私ども、できれば帰ってこいよと、長井市もいいぞというところを声かけをしなきゃいけないと思いますし、あと、自分も経験として、自分の話で恐縮なんですが、子供４人いるんですが、私が仕事の関係で、ちょうど小学校、幼稚園とか保育園とか小学校のときに、東京のほうに行ったんですよね。埼玉に住んでいましたけど。自分たちのふるさとは埼玉だと言うんですよ。たった８年しかいなかったんですよ。なぜかというと、やっぱり幼稚園とか小学校の思い出が強烈なんですね。中学校になると、自分もそうなんですが、ほとんど学校と自宅の往復なんですよね。あと学校だけなので、地域の思い出というのはあまりなくて、友達だけなんですよ。ですから、友達も長井市じゃなくていろんなところに住むんだったら自分も長井ということにこだわる必要がないと、酒飲んだりして話すとそういうこと平気で言うんですね。ちょっと衝撃でした。

なもんですから、例えば今年の長井おどりなんかも、子供たちに参加してほしいですね。子供たちに小さいときのいい思い出、そういう意味では、特に平野コミュニティセンターが小学校も中学校もいっぱい出ていただいてすごくうれしかったし、こういうこと地道にしていかなきゃいけないんだなと。

心配するのは、コロナ禍でここ３年ですかね、各神社の例大祭ってほとんどないんですよね。だから、それと地区の行事もないし、親子行事なんかもほとんどありませんし、これはゆゆしきことだなと。愛郷精神みたいなものをしなきゃいけないとは思ってたんですが、その辺どうしたらいいか、やっぱりぜひ鈴木富美子委員からもご提言いただいたり、あと地域の人、あるいはコミュニティセンターの人たちからもいろんな提案をいただきながら、どういうふうにして地元に戻りたい、住みたい、一旦出たとしても自分の生まれ育ったところはいいところだと思っていただけるような、そんな取組をしていきたいなと思ったところです。

○梅津善之委員長　10番、鈴木富美子委員。

○１０番　鈴木富美子委員　あと、私も子供たちに対する思いは市長と全く同じです。今年、例大祭がないということで、寺泉の五所神社だけやりました。すごい若者がどこからともなく集まってきまして、新型コロナウイルス感染症のことも心配でしたけども、こんなに祭りの太鼓にみんな心躍らせるということは、やっぱり小さいときの思いが、ふるさとというのは本当これをしっかりと小さな幼稚園、小学校に植え付け、植え付けるというのはちょっと言い方悪いんですが、本当よさを、伝統でもあるし、ぜひ

学校と協力していただいて、この長井市は本当自然も豊かだし、しっかりとよさを分かってもらえばいずれは帰ってきて、ふるさとを大切にするのかなと思っております。

市長のお話を直接子供たちは聞かれたということで、市長との距離感も縮まって、すごく長井市に対する思いはよかったのかなと、講話した後の感想は私もそう思っています。

これから人口が減る中で、これからのまちづくりに若者たちにしっかりと携わっていただきたいこともありますので、少年議会の在り方について、少しお話をさせていただきたいと思います。

遊佐町の少年議会があるんですけども、これにつきましては、ちょっとさらっとした資料ですけども、紹介させていただきたいと思います。

遊佐町の少年議会につきましては、2003年から始まったそうです。町を率先していく若者が減っていく中で、これからのまちづくりをしていくのは若者であるとの訴えから、少年町長・少年議員公選事業が始まったとお聞きいたしました。特徴といたしましては、政策実現のために45万円の独自予算が設けられています。対象者は遊佐町在住の中高生及び遊佐町に通学する高校生、対象者は誰でも少年町長及び少年議員の選挙と被選挙権を持つとのことでした。大まかなことは、配付しました資料をご覧いただきたいと思います。

長井市の少年議会においても、生徒たちのすばらしい提案や私たちの視点とは違う意見がありますが、今までのように選ばれた代表者だけでなく、もっと広く多くの生徒が参加できる、行政に興味を持ってもらえるチャンスを与えるべきと私は思います。長井市を好きになってほしいと強く感じております。

子供たちから提案された意見などを検討し、一緒に実現に向けて活動するなどいかがでしょうか。市長のお考えをお聞きしたいと思います。

○梅津善之委員長　内谷重治市長。

○内谷重治市長　お答えいたします。

ただいま鈴木富美子委員からご提言いただいたわけですが、遊佐町のほうは議会だけじゃなくて、町長なんかも決めて、少年たちで当局側と議会があって意見を闘わせて、それで本当の議会、遊佐町の議会であったり町に対して提言を行うということだと思います。

長井市の場合は、ご協力いただいて平成16年からしているわけですけど、それは少年議会だけなんですね。ご存じのとおり、私が市議会の議員のときに提案させていただいて、それを議会側と、あと当局側が酌み取っていただいて今の形にしてるんですが、難しいところは、小学生じゃなくて中学生と高校生で私は提案して、それをそのまましていただいたんですね。小学生ですと、面白いのかもしれませんけども、中学生、高校生ですと、より具体的にまちづくりとして提案できると。ですから、本当に次の世代を背負っていただく、まちを、市を担っていただく人たちの意見を我々も聞きたかったしということでやったんですね。

遊佐町の少年議員というのは、中学生でしたっけ。中と小でしたっけ。

（「中高生」の声あり）

○内谷重治市長　同じでしたっけ。当時は大体小学校が多かったんですよ。小学生ですと、何かすごいイベントみたいになっちゃって、ちょっと違うだろうということで。遊佐町については、本当具体的に予算もつけてやってまして、長井市としても、もし少年議会、発展的にいろんな提言いただけるとしたら、予算もつけてそれを実際にやるということも必要なのかなと思ってたんですが、どうも１回１回限りでつながらないんですね。それと、中学生も高校生も忙しくて、長井市のまちづくりに対して勉強を具体的に行政側と話ししてはしてないんですね。自分たちが客観的に見て思ってる、例えばレインボ

ープランのことであったり、あるいは道路の整備であったり街灯を暗いから明るくして、身近なところを提案いただいたんですが、そこのところもう少し突っ込んだ政策的な提案にしていきたいと思うんですが、そういう年もあるんですよ。具体的にかなり突っ込んだ政策提言、本当の市議会議員の皆さんと勝るとも劣らないような、そういう提案をしていただいたりあったんですよね。ですから、どういうふうにやるかというのが非常に難しくて、やっぱりそれには各学校の先生方の、あるいは校長先生のご理解が一番だと思いますね。

そういう意味でいえば、ちょっと難しいんですけど、ぜひいろいろ提案いただきたいんですが、一つ言えることは、ちょっと余計なこといろいろ言って、時間も少しあるので言わせていただきますと、例えば今、市の職員の採用試験とかやっておりますし、あと、西置賜行政組合の職員の採用なんかも市でやっているんですよね。これが長井市の人が受けない。市役所、本当少ないです。何でこうなるのかなと。例えば私もかつて昭和のときに、市の職員を受けて10年ほどお世話になったんですけども、そのときは何人採るとは言ってなかったんだけど100名以上は受けてましたよね。ところが、今は子供も少ないということもあるんでしょうけども、二、三十人なんですよ、ここのところ。５人採るとか７人程度採ると言っててですよ。昔、若干名だったんですよ。それにばあっと集まってきた。結構周りのまちとか県外からも受けてくれるのに対して、市のほうからもある程度受けていただくんですが、失礼な言い方ですと、優秀な人ほど長井の人は受けてない。だから、いっぱい受けていただくんですが、残らないんですよ。

そういう意味からいうと、本当はやっぱり少年議会あたりでもう少し中学生、高校生のうちからまちづくりとか地元の地域をよくしていこうとか、そういう視点で考えるということを学んでいただければ違ってくるのかなと思っております。

質問の内容、ぜひそういう意味では少年議会をより充実させて、遊佐町などの例を学んで、今の少年議会の仕組みをもう少し、より充実したそういったものにできればなおありがたいと思いますので、いろいろご提言をお願いしたいと思います。

○梅津善之委員長　10番、鈴木富美子委員。

○１０番　鈴木富美子委員　少年議会というのはせっかくあります。でも、そのままずっと同じ方法じゃなくて、やはり市長がおっしゃるように一工夫も二工夫も、せっかくですので皆さんと知恵を絞ってやっていけたらいいなと思いますが、どうしても、何か発表しますよというだけの少年議会だったら、あれはあんまり意味がないかなとちょっと思っております。せっかく子供たちが素直に考えたことをそのまま言っていただく、そしてそこに対して行政もしっかりと耳を貸すというような、うまくかみ合えばいいなと思います。意見ですから、それが全て悪いとかいいとかという評価はないので、その中で本当に子供たちが長井を考えることがあったらそこに私たちも力を貸してやるということが大事なことだなと思います。

さっき市長から試験を受けないという、採用試験で人がいないということは、長井市に対しての魅力がないのか、それとかもっと住んでいる私たちが長井はいいよと言わないと人は集まらないと思いますので、市民ももちろんですけど、親も長井がこんなにいいところだからこんなねごでというような、みんながそういう気持ちになれるようなまちづくりって本当に大事だなと思いますので、そのチャンスは少年議会あたりにあるのではないかと思いますので、ぜひ今後とも、私たちも一生懸命考えますので、若い人たちにとにかく長井市を好きになってもら

う方向で私は少年議会を有効にしたいと思いますが、市長いかがですか。

○梅津善之委員長　内谷重治市長。

○内谷重治市長　どうもありがとうございます。ぜひ少年議会、もう少しまちづくり青少年育成市民会議の皆様とも議論しながら、より発展的に仕組みを変えていったほうがいいのかなと思います。

なお、鈴木富美子委員がおっしゃるように、大人の人たちが、例えば多分、保護者が言わないんですよ。多分、保護者が言わない。長井市を受けろって言わない。ちょっと誰の名前とは言うとまずいかもしれないんですけど、まあいいか。土屋教育長の情報ですと、長井市の出身の方が隣の米沢市とか上山市とか山形市とか、いっぱい受けてるんです。非常に優秀だと。長井市は受けないのに、そっちに行くんですよ。これって昔はなかったと思います。ですから、逆に言えば、米沢市のほうからも、南陽市とか川西町、白鷹町、飯豊町からいっぱい長井市に職員として来ていただいてるんですよ。我々はどこの出身だからなんて差別は一切しませんので、本当にやる気があって面接も筆記試験も頑張って、いい成績の方はちゃんと何人採るかというのはその順位で採用させてもらっているので。ただ、長井の人があれ何でこんなに少ないんだろうと。いや、本当にがっかりしていまして、多分それは我々保護者とか地域の人たちのまち、長井市に対する愛着が大分弱くなってきたんじゃないかと。どうせ長井市は駄目だから、こういうふうな感覚なんですね、きっとね。これをやっぱり変えていかないといけないのかなと思ってますので、ぜひ鈴木委員はじめ議会の皆様からもいろいろご提言をいただいて、一緒になって次の世代、そのまた我々の孫の世代も長井市を何とかしたいと言ってもらえるように我々も頑張んなきゃいけないのかなと思います。ありがとうございました。

○梅津善之委員長　10番、鈴木富美子委員。

○１０番　鈴木富美子委員　新採の職員の方もですが、やはり働きやすい職場にしていくことも、市長、大事だと思います。若い人の意見を、失敗してもいいからおまえやってみろというような大きな心でやっていけば、上司が分かった守ってやるぞ、市長に怒られてもいいぞみたいな雰囲気を、ちょっと話替わったんですが、市の職員たちも中で、若い人たちがやっぱり希望持って試験受けるわけで、職員になるわけですから、その辺も踏まえて、そこの辺からしっかりとしていただきたいなと思いますが、いかがでしょうか、市長。

○梅津善之委員長　内谷重治市長。

○内谷重治市長　私は職員には優しくしているつもりなんですが、まだまだ努力が足りないのかなと思いますが、本当に若い職員の皆さんは、結構やりがいを感じて一生懸命頑張っている方は多いなと思います。ただ、部署によっては、自分のやりたいことはほかにあるのになということで、やっぱりある程度不満といいますかね、そういう方ももちろんいらっしゃると思いますし、あと、我々管理職もちょっと独善的になってるところもあるかもしれませんので、そういったところも含めて反省をしながら、長井市内いろんな企業さん頑張っておられるので、我々もその企業さんと同じように魅力ある職場づくりと、あと市民の皆様からもご協力いただいて、とにかく市民みんなで、地域もそうなんですが、コミュニティセンターもそうなんですが、長井のよさというのはいっぱいありますので、それをもっともっと磨いて、我々自身も本当に住んでてよかったと幸せを感じられるような、そんなまちづくりを職員の皆さんと頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○梅津善之委員長　10番、鈴木富美子委員。

○１０番　鈴木富美子委員　市長のお言葉で明るい未来が見えたかなと思います。新採の方も受

けて１年ぐらいしたら長井市受けてみろって友達を誘ってくれるような、やっぱり人材を育てることも必要かなと思います。

明るい未来を託して私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

内谷邦彦委員の総括質疑

○梅津善之委員長　次に、順位３番、議席番号７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　政新長井の内谷邦彦委員です。早速質問に入らさせていただきます。

２款１項６目企画費、111地域おこし協力隊推進事業、決算額20万6,000円について、地域づくり推進課長に伺います。

決算資料では、委託料11万円、地域おこし協力隊活動報告、ラジオ番組制作業務委託料、コロナ禍のため人を集めての報告会は実施せず、ラジオ出演及びながいチャンネルなどで動画公開することで市内外に広く活動を周知となっており、その他経費として９万6,000円で合計20万6,000円と記載されております。当初予算では、地域おこし協力隊推進事業として予算総額は001地域おこし協力隊募集事業20万6,000円、内訳は旅費が16万1,000円、需用費１万円、役務費１万6,000円、使用料及び賃貸料１万9,000円、合計20万6,000円で、合計金額が同じとなっております。この地域おこし協力隊募集事業が変更になったと考えてよろしいんでしょうか。

○梅津善之委員長　新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長　地域おこし協力隊推進事業につきましては、今、委員からありましたとおり、当初の内容から変更して事業を実施いたしまして、結果的に当初予算の協力隊の募集事業の20万6,000円の決算額と同じになった状況でございます。

具体的に申し上げますと、コロナ禍によりまして毎年年度末に開催している地域おこし協力隊の活動報告会、対面式の報告会ございますけども、開催が難しくなったことと、あと、同じくコロナ禍で不用額が発生した旅費等がございましたので、そちらを流用いたしまして活動報告を兼ねたラジオ番組制作委託費として支出を行ったものでございます。

ラジオ番組につきましては、協力隊本人が日頃活動を報告することで市内外に広く活動を周知するとともに、当該募集事業についても紹介してもらいながら、一緒に活動してみませんかということで呼びかけをしてもらうことで地域おこし協力隊の活動に興味、関心を持ってもらうことを狙いといたしまして、協力隊の募集事業としまして実施したところでございます。

○梅津善之委員長　７番、内谷邦彦委員。

○７番　内谷邦彦委員　次にですが、当初予算でほかに004地域おこし協力隊定住起業支援補助金200万円、補助金対象者２名となってますけども、この募集事業はどのようになったんでしょうか。募集事業としてどのようなことを行ったのか、応募状況などが分かれば教えてください。

○梅津善之委員長　新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長　最初にこの事業をちょっと簡単に説明いたしますが、総務省では地域おこし協力隊の地方への定住、定着を図るために、任期終了日から起算して前１年間、あとは終了の日からその後１年以内に活動地の市町村内で起業する方、仕事を起こす方の起業に要する費用について、１人当たり100万円を上限として特別交付税措置を講じていただくこととしております。

こうした国の動きを踏まえまして、本市につきましては平成28年度から長井市地域おこし協力隊定住・起業支援補助金要綱を制定いたしまして、起業に必要な経費に対しまして補助金を